

2013年の本誌(W'Waves Vol. 19 No. 1 53-54, 2013)で「地方大学における国際的視野を持った医療人育成への取り組み」と題して、高知大学医学部の国際連携活動の一部についてご報告申し上げました。その際にも少し触れていますが、今回はハワイ大学医学部との交流を通して生まれた国際セミナーについて具体的に述べさせていただきたいと思います。前回の文章も併せて読んでいただければ幸いです。

前回も述べましたが、平成17年から高知大学医学部国際連携推進委員会委員長を仰せつかっています。私が委員長となって以来、いくつかの大学との協定を締結しました。✓



私ども高知大学医学部はいわゆる第一期がんプロの時代から国際化に注目していました。またがん診療における医科歯科連携の重

地方大学における国際的視野を持った医療人育成への取り組み

その2 「ハワイ国際交流セミナー&視察研修」

小林 道也

高知大学医学部 医療学講座医療管理学分野 外科学講座臨床腫瘍・低侵襲治療学(兼)
高知大学医学部附属病院がん治療センター



〳 その中でもハワイ大学医学部との交流は活発で、毎年複数名の医学生がお互いの大学で研修をし、双方向の交流を続けています。ハワイ大学医学部の学生が本学で研修をする際には毎回高知大学医学部の学生と英語でプレゼンテーション、ディスカッションするセミナーを開催しています。

平成24度から、文部科学省の「がんプロフェSSIONAL養成基盤推進プラン」が行われています。この事業には1)がん研究の推進、2)がん教育改革、3)地域がん医療貢献の3つの柱があります。このうち、高知大学医学部は地域がん医療貢献を主な目標として掲げています。高知大学も中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムの一員として参加をしています。

要性にも注目しており、高知県では平成21年から「高知口腔ケアフォーラム」を開催してきました。この発展版として、医科歯科連携を当初の目標として平成23年度末に第1回の「ハワイ国際交流セミナー&視察研修」を企画いたしました。さらに、がんプロの目標の一つに「国際化」がキーワードとして加わり、この過程でインテンシブコースの位置づけで、第2回以降第3回までこのセミナーを開催しました。昨年の第3回のセミナーで、一定の形ができたと自負しています。そこで今回からはがんプロの事業を離れ、独自の歩みを続けていくことといたしました。現在はがん口腔ケアを中心として、医学教育、グローバル化などもキーワードとして企画運営しています。

本セミナーは3日間のプログラムです。1日目はオリエンテーションとして残り2日間のプログラムの説明、打ち合わせを行い、2日目は早朝から夕方まで複数の施設見学、3日も早朝から夕方まで、日米の演者による講演を中心としたセミナーを開催しています。

ハワイでの開催を企画した理由は、1) 高知大学医学部が以前からハワイ大学医学部と活発な学生交流、研究者交流を行っており、2011年には正式な協定を締結していること、また、2) ハワイ大学医学部が全米でも医学教育で高い評価を得ていること、3) 日本人医師も多く、欧米と日本の医療の違いを



医療、がん口腔ケア、がん教育を含めた医学教育などについての講演をしていただき、その理解を深める、2) 日本人参加者も講演し、

理解した教育者が多いこと、などによるものです。

そしてその目的は、1) ハワイ大学をはじめとして、医師、歯科医師、看護師などによりアメリカ、特にハワイでのがん医療、在宅



日本のがん医療の現状についてハワイからの参加者とともに討論する、3) 先進医療機関、在宅医療、デイケア、がん看護教育施設、口腔ケア教育施設、ハワイ大学医学部、ハワイ大学がんセンター (NCIのがんセンター) などの見学により、日本との違いや良い点、悪い点を認識し、今後に活かす、ことです。

第1回から3回まではハワイ州で最大かつ最先端の医療機関で、ハワイ大学医学部の教育病院の主体となっているクィーンメディカルセンターを見学しました。また第3回に訪問したハワイ大学がんセンターは実際には米国NCIのがんセンターで、2013年2月に新設されたがんの基礎研究を中心に行っている施設です。第1回、2回に訪問したSAKURA HOUSE は日系人を中心とした在



宅医療を受けているご老人のデイケアサービスを行っている施設です。さらにハワイ大学医学部、看護学校ではシミュレーション教育施設の見学も行いました。施設見学、セミナーとも1日ばかりでかなりタイトなスケジュールです。

今年の第4回はクアキニメディカルセンターに初めて訪問しました。実はこの病院は私が1986年から1988年まで研究留学していた施設で、古くは日系人を対象とした病院です。1934年には昭和天皇皇后両陛下からの当時の金額で1万円の恩賜により設備の拡充がなされ、「恩賜記念館」と呼ばれました。今も銅製のドームが現存しています。現在でも多くの日系のご老人が附属施設に入所されていますし、病院では多くの日系の医師、看護師が勤務しています。また昨年に引き続きハワイ大学の看護学校のシミュレーションセンター、審美歯科クリニック、ハワイ大学医学部を訪問しました。その詳細につきましては高知大学医学部附属病院がん治療センターのホームページに報告書を載せてあります(<http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/gan/kouen.htm#27koryu4>) のでご覧いただければ幸いです。

最終日のセミナーは、今年はハワイ大学医学部教育担当副学部長で医師のRichard T. Kasuya先生をはじめ、ハワイ大学医学部医学教育アドバイザーで医師の鈴木光明先生、ハワイ東海大学副学長 Douglas Fuqua 先

生、ハワイでホスピス看護師として活躍するAtsuko Woo氏、ハワイのクリニックで歯科衛生士として勤務する富田杏子氏に講演をしていただきました。また、日本側からは、有病者口腔ケアの専門家である万成病院歯科医長小林直樹先生および高齢者歯科の専門家である北海道大学柏崎晴彦先生の講演と活発なディスカッションが行われました。

このセミナーへの参加者は高知県のみならず、全国に広がりを見せており、また参加者の職種も医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、大学院生、その他、と広く、お互いの立場でのディスカッションが行われ、その後の交流も続けられています。本年はサポートしていただいている株式会社ティーアンドケーの新製品発売と時期が重なり、昨年に比べ高知県外からの参加者がやや少なくなっていますが、九州、北海道など広く参加をいただいています。

さらにセミナーの様子はUstreamを通じて世界同時発信しており、日本とは19時間の時差があるにもかかわらず、多くの方からご意見を頂戴しました。

なお、高知大学医学部の若手医師は高知医療再生機構の補助により参加をさせていただいております。紙面をお借りしまして関係の皆さまに深く御礼申し上げます。

今後も、高知という地方発信の国際的なセミナーを継続していきたいと思っています。